福建—浙江火山帯の花崗岩類

石　原　舜　三
Shunso　Ishihara

華南海岸部の福建—浙江省からコリア半島南東端部の慶尚南道にかけて白亜紀火山深成岩帯が存在している．　これは縁海の発達をうながした張力割目活動　それに引続くマグマ活動の名残りと思われる．同様な張力割目活動は西南日本にも知られているが大きな違いは福建—浙江火山帯にはAタイプ花崗岩に酷似するハイパーソルバス花崗岩が産出する点にある．　それには特異なＲＥＥ鉱床が伴われ非常に興味深いので　ここに紹介してみよう．　（本文6～21頁参照）．

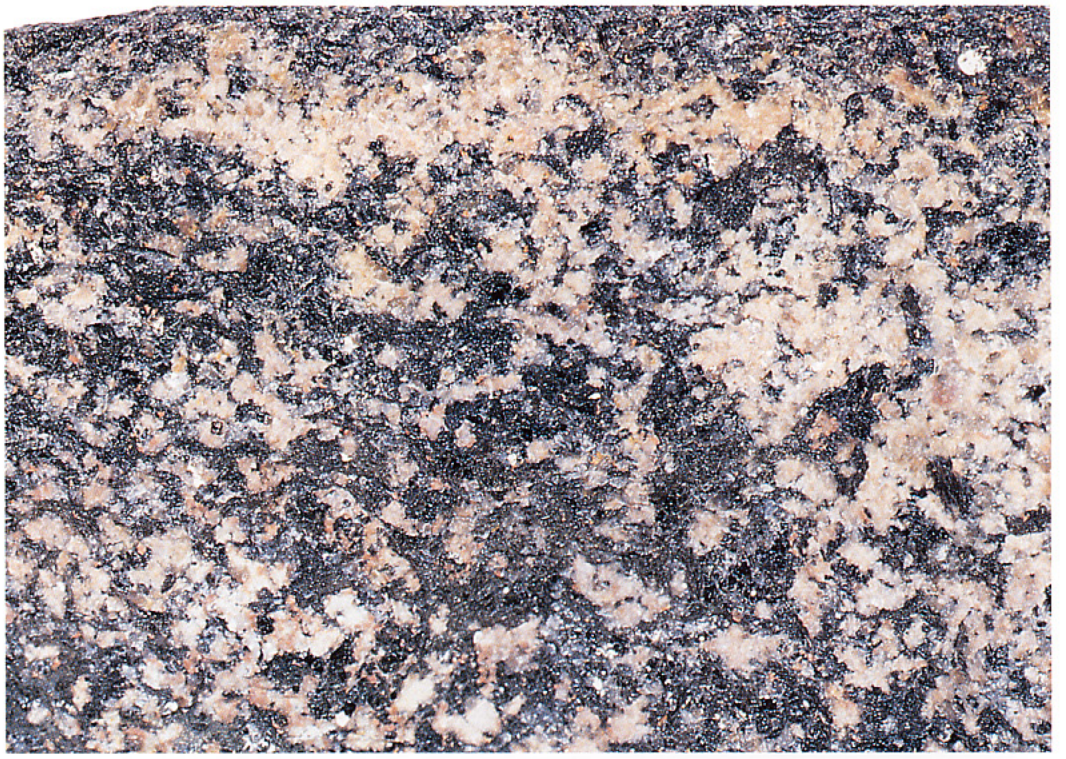
↑**写真1**　福州で代表的なAタイプとみなされている魁岐花崗岩採石場．　崖上部にも人が働いている点に注意．

↑写真2　空海が苦労の上たどりついた(804年)といわれる福州郊外の湧泉寺．　その建物には地元の花崗岩がふんだんに使われている．

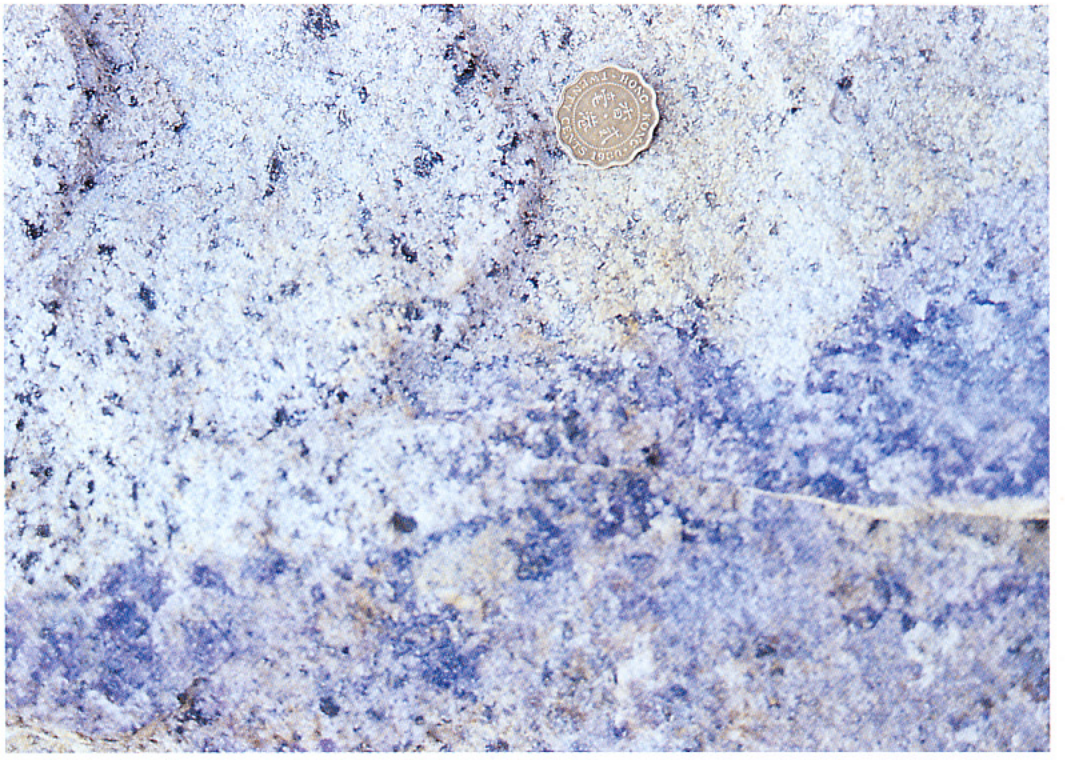
↑写真3　魁岐花崗岩（Aタイプ　晶洞性　左）と鼓山花崗岩（右）．　コインの径は14mm．

↑写真4　蘇州採石場の発破風景．　午前の上り発破　爆音が全山をゆるがす．

↑写真5　Li黒雲母岩が産出するAタイプ花崗岩の最頂部．



↑**写真6**　Li黒雲母岩のクローズアップ．　左右7cm．



↑**写真7**　Li黒雲母岩付近には紫色螢石が割目その他に産出し　この母岩がFに富んだマグマから晶出したことがわかる．